

## 10 甲殻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### 1. 三重県の十脚甲殻類相

本県の海岸線は、総延長距離が1,140,150mあり、全国で7番目の長さである(環境省, 2024)。伊勢平野を緩やかに流れる河川は河口部で干潟を形成し、伊勢湾に面した海岸線は曲がりの少ない砂浜と遠浅の前浜干潟を伴う。五十鈴川から志摩半島に至ると、リアス海岸へと海岸線は大きく変化し、尾鷲に至る熊野灘沿岸は屈曲の多い海岸となり、紀伊山地から流れる河川は急流へと変わるも、賀田湾などの内湾では干潟を伴う。

三重県産十脚目のうち、短尾類については古くから研究が進められており、1920年代にはSakai (1936, 1937, 1938及び1939)のStudies on the Crabs of Japan (I~IV)にすでに120種の三重県に関する記載が認められる。1940年台以降は山下(1940)を始め多くの地理的な調査報告が見られるが、県域全体をまとめたものとしては田中(1962, 1964, 1966, 1973, 1978)の「三重県産カニ類総目録」及び「追加, その3~5」があり380種が収録されている。また酒井(1976)のCrabs of Japan and the Adjacent Seas (図鑑 日本産蟹類の英文版)には掲載種約900種のうち328種に三重県関連のデータの記載が認められる。三重県の短尾類調査研究者グループで組織した短尾類分布調査研究会はこれらの文献をベースに、詳細な研究史と多くの未発表資料を追加し、1983年に「伊勢湾および熊野灘北中部海域の短尾類相」(三重県立博物館研究報告第5号)をまとめたが、それには447種が収録されている。その後、帝釈・山下(1994)が10種を追加し、近年では三重大学の練習船勢水丸による熊野灘深海底生動物相および伊勢湾南部潮下帯底生生物相の調査が2017~2022年に行われ、多くの研究者が幅広い分類群の種を明らかにした(木村・木村・自見・角井ほか, 2018; 木村・木村・自見・倉持ほか, 2019; 木村・木村・角井ほか, 2019; 木村・木村・自見・喜瀬ほか, 2024)。その中で短尾類では4種が追加され、2種の未記載種が報告された。

本県をタイプ産地とする短尾類は、短尾類研究会(1983)が13種を明らかにしているものの、ギボシマメガニを見落としている。近年、志摩市大王町の船越海岸をタイプ産地とするハマベコブシモドキが記載された(Komai, Shimetsugu & Ng, 2019)ので、15種となった。

また2007年以降、県内外の研究者が伊勢湾・熊野灘沿岸域から本県未記録種を次々と発表している。締次(2010, 2013, 2014, 2015a, 2015b, 2015c, 2017a, 2017b, 2023a, 2023b), 締次・木村(2017, 2018, 2019b, 2020, 2024), 締次・木村・木村(2016), 締次・佐藤・木村(2017, 2018)らが20種、野元ら(2008), 上野(2007, 2010), 若林(2017b), Komai, Shimetsugu & Ng, (2019), Komai *et al.* (2022)らが6種追加し、合わせて26種が報告された。従って、三重県産短尾類の種数は短尾類研究会(1983)が収録した447種から42種(未記載種を含む)増えて489種となる。日本産短尾類既知種は約1500種(和歌山県, 2022)といわれているので、その3分の1にあたる。

長尾類については、データを伴う県内のまとめた目録は今なおみられないが、武田(1986)が74種(内淡水エビは3種)を解説している。その後の文献記録と鳥羽水族館標本データを合わせて、帝釈・山下(1994)が21種を追加し、三重県産の長尾類に関する報告の少なさを痛感したと述懐している。勢水丸による調査では、木村・木村・自見・倉持ほか(2019)と木村・木村・自見・喜瀬ほか(2024)が合わせて8種(内3種の未記載種または不明種)の海産長尾類を追加した。

淡水エビについては、レッドデータブック関係で、三重県(2006)及び三重県(2015)が同じ5種を情報不足種(DD)に選定しているものの、記録はあるとしつつも文献やデータの表記はない。鳥羽市域を調べた佐藤(2023)は1種を情報不足種(DD)に選定している。報文としては、南勢町押淵から小川(1999)がヌマエビを、菅島から小川(2001b)がヤマトヌマエビとヒラテテナガエビを、紀勢町から小川(2001a)がヌマエビ、ミゾレヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ヒメヌマエビ、ヤマトヌマエビ、スジエビ、テナガエビの7種を、志摩半島(松阪市から旧南勢町まで)から岡(2004)が同じ7種を、この7種の内ヒメヌマエビを除く6種を含む11種(ミナミテナガエビ, ヒラテテナガエビ, ヌカエビ, ミナミヌマエビ, アメリカザリガニが加わる)の淡水エビを田中ほか(2013)が宮川から、それぞれ報告している。その後、今井ら(2019)が志摩半島において外来種であるチュウゴクスジエビの定着を報告している。武田(1986)は県産淡水エビとしてテナガエビ, ヌマエビ, アメリカザリガニの3種を載せているだけであったが、その後の報文によって10種が記録されたことにより、現在の県産淡水エビの種数は13種となった。

これらのことから、県産の海産長尾類は武田(1986)の71種, 帝釈・山下(1994)の21種, 木村・木村・自見・倉持ほか(2019)と木村・木村・自見・喜瀬ほか(2024)の8種を足して100種となり、淡水エビの13種と合わせて三重県産長尾類の種数は113(データが不明の種も含まれる)となった。

異尾類については、佐波(1981, 1983)により92種が、その後、佐波・富田(1984)が「伊勢湾および熊野灘北中部海域の異尾類相」(三重県立博物館研究報告第6号)にて本県異尾類の研究史をまとめ、詳細データを明らかにした目録で102種が報告されていて、この中で、本県をタイプ産地とする異尾類として *Uroptychus pilosus* Baba, 1981 (ワラエビ科, 熊野灘沖がタイプ産地)を紹介している。近年では、帝釈・山下(1994)が4種, 若林(2016, 2017a)が

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

4種、締次(2008, 2016a, 2016b)及び締次・木村(2019a)が4種、勢水丸による調査(木村・木村・自見・角井ほか, 2018; 木村・木村・自見・倉持ほか, 2019; 木村・木村・角井ほか, 2019; 木村・木村・自見・喜瀬ほか, 2024)が18種(内13種は未記載種または不明種)をそれぞれ追加したことにより、三重県産異尾類は132種が明らかとなった。

## 2. 調査内容と結果

今回のレッドデータブック改訂にあたっては、三重県レッドデータブック2015に掲載された種を基に、次の3つの観点を加味して、評価の対象種とした。

1. 2017年に公表された環境省版海洋生物レッドリスト及び2020年に公表された環境省レッドリスト2020に掲載された種。

2. 三重県レッドデータブック2015以降に県内で新たに生息が確認された種。

3. 甲殻類部会で検討を要すると判断した種。

評価対象種の生息域に関しては、三重県レッドデータブック2015に引き続き、長尾類では淡水域に生息する種に限定し、短尾類と異尾類にあつては主に河口域や干潟の汽水域に生息する種としたが、一部は汽水域ではない前浜干潟に生息する種も含めた。

調査期間は2022年9月から2024年6月まで。現地調査、文献調査、標本調査を行い、データ収集を行った。現地調査では、伊勢湾・熊野灘流入河川の上流域から下流域、干潟の潮間帯を中心に採集調査を行った。なお、ツバサゴカイやムギワラムシの棲管に共生する種に関しては、保護の観点から採集によらず、文献調査から評価した。シオマネキ類2種は目視調査を行った。

今回の改訂で、絶滅危惧IA類(CR)3種、絶滅危惧IB類(EN)7種、絶滅危惧II類(VU)5種、準絶滅危惧(NT)13種、情報不足(DD)6種の計34種を選定した。このうち8種が三重県レッドデータブック2015以降に新たに県内で確認された種である。環境省版海洋生物レッドリスト及び環境省レッドリスト2020掲載種のうち、県内で確認されているのは30種で、この中から25種を選出した。三重県レッドデータブック2015と比較すると生息地点数に減少が見られる種が幾つかあるが、これらは、これまで本県レッドデータブック甲殻類では記録に基づかない記述が見られたため、改めて調査を行い見直した結果である。

## 3. 絶滅危惧種の概要

今回の改定で2015年版よりカテゴリーが上がった種は4種で、シオマネキが絶滅危惧IB類(EN)を絶滅危惧IA類(CR)に、クマノエミオスジガニを絶滅危惧II類(VU)から絶滅危惧IB類(EN)に、クシテガニを準絶滅危惧(NT)から絶滅危惧IB類(EN)に、ウモレベンケイガニを準絶滅危惧(NT)から絶滅危惧II類(VU)にそれぞれ変更した。これら4種についてはいずれも個体数が減少しているためである。

また、情報不足(DD)より調査が進み、各カテゴリーに移行した種はウチノミカニダマシ、ヒメヌマエビ、ムツハアリアケガニの3種である。カテゴリーが下がった種は2種で、ヒメヤマトオサガニを絶滅危惧IB類(EN)から、ハクセンシオマネキを絶滅危惧II類(VU)から、ともに準絶滅危惧(NT)に変更した。ヒメヤマトオサガニについては、熊野灘沿岸では同所的に生息するヤマトオサガニと拮抗しており、さらに広く伊勢湾沿岸にも分布することが明らかになったため、実態の解明に取り組んだ調査の成果である。ハクセンシオマネキについては個体数の増加が要因である。

新規に掲載種となるのは絶滅危惧IA類(CR)が2種、絶滅危惧IB類(EN)が4種、絶滅危惧II類(VU)が3種、準絶滅危惧(NT)が2種、情報不足(DD)が3種である。新しく掲載したこれらの種について簡単に述べる。

絶滅危惧IA類(CR)に選定したアカホシマメガニとフジテガニはいずれも三重県レッドデータブック2015以降、生息が確認された種で生息地点、生息個体数共に極めて少ない。また、絶滅危惧IB類(EN)に選定した4種のうち、ハマベコブシモドキは志摩市大王町の船越海岸をタイプ産地とする2019年に新種記載された種であり、清浄な砂浜に生息するが産地は限られている。ヤドリムツアシガニはツバサゴカイの棲管に共生する6本足のカニであり、2014年に新種記載された種で、本県では英虞湾でのみ生息が確認される希少種である。オオヨコナガピンノも前種と同じくツバサゴカイの棲管に共生する種であり、本種も宿主が減少しているため危機的な状況である。ギボシマメガニは、答志島桃取をタイプ産地とする大型のマメガニでミサキギボシムシの巣穴に共生する。

絶滅危惧II類(VU)に選定された3種のうち、ヌカエビは、従来、ヌマエビの亜種とされてきたが、遺伝学的・生態学的知見に基づいて別種として整理された(池田, 1999; 林, 2007)。県内における生息確認地点数は3地点のみであり、外来魚の捕食による生息地の消滅が危惧される。ヤドリカニダマシはムギワラムシの棲管に共生する異尾類で、近年ムギワラムシが減少しており本種も減少している。カネココブシガニは環境省レッドリスト2020で情報不足(DD)に選定されている種で、県内では鳥羽市、志摩市、紀北町、熊野市で生息が確認されている。個体数は少ない。

準絶滅危惧(NT)はヒメアシハラガニ、トゲアシヒライソガニモドキの2種で、ヒメアシハラガニは分布域は広いが、主に干潟に生息する小型のカニ類を捕食するため、干潟の減少に伴って減っている種である。トゲアシヒライソガニモ

ドキは、三重県レッドデータブック 2015 以降に生息が確認された種であるが、近年、生息地、生息個体数ともに減少が見られる。

情報不足 (DD) はベンケイガニ、ハマガニ、ヒメメナガオサガニの3種で、うちヒメメナガオサガニは三重県レッドデータブック 2015 以降に生息が確認された種である。ベンケイガニ、ハマガニは近年の記録が少ない種である。

#### 4. 保護対策

津市北部の海岸では、現在、堤防改修工事が施行中である。砂浜海岸には幾種もの絶滅危惧種の昆虫が生息しており、田中川干潟へは県内外の研究者が訪れ、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による定期的な底生動物の調査研究も行われている。同干潟には2種の希少野生動物種を含む13種の絶滅危惧種(シオマネキ、クマノエミオスジガニ、クシテガニ、ヤドリカニダマシ、ウモレベンケイガニ、ヒメアシハラガニ、ヒメケフサイソガニ、トリウミアカイソモドキ、チゴイワガニ、オサガニ、ヒメヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキ、ハマガニ)が生息する。工事施行に当たっては、専門家の意見を取り入れ工法を工夫して、絶滅危惧種生息地の環境に少しでも影響が出ないように配慮されている。本県では今後も各所で、堤防改修や水門などの工事が行われていくと思われるが、貴重な自然環境を破壊することのないように、専門家たちの意見に耳を傾けて対応していただきたい。

なお、学名は WoRMS - World Register of Marine Species (<https://www.marinespecies.org/aphia.php?p=search>) に準拠した。

#### 文 献

林 健一. 2007. 日本産エビ類の分類と生態II. コエビ下目(1). 生物研究社, 東京, 292 pp.

池田 実. 1999. 遺伝学的にみたヌマエビの「種」. 海洋と生物, 123: 21-4.

今井 正・大貫貴清・小笠原長護・斉藤英俊. 2019. 三重県と和歌山県からのチュウゴクスジエビの記録. 南紀生物, 61(2): 125-128.

環境省ホームページ. 2024. 環境統計集 都道府県別海岸延長 [Excel版 35KB]: 2016年3月31日現在 (資料: 国土交通省「海岸統計 平成28年度版」より作成).

<https://www.env.go.jp/doc/toukei/contents/tbldata/h29/2017-3.html#capt3> (2024年8月29日参照)

木村妙子・木村昭一・自見直人・角井敬知・富岡森理・大矢佑基・松本 裕・田邊優航・長谷川尚弘・波々伯部夏美・本間理子・細田悠史・藤本心太・倉持利明・藤田敏彦・小川晟人・小林 格・石田吉明・田中 颯・大西はるか・締次美穂・吉川晟弘・田中正敦・櫛田優花・前川陽一・中村 亨・奥村順哉・田中香月. 2018. 三重県熊野灘の深海底生生物相. 三重大学大学院生物資源学研究科, 1-32 p.

木村妙子・木村昭一・自見直人・喜瀬浩輝・波々伯部夏美・藤本心太・中島広喜・松尾拓己・山崎博史・小林 格・小川晟人・櫛田優花・前川陽一・中村 亨・奥村順哉・高野雅貴. 2024. 伊勢湾南部潮下帯の底生動物相. 三重大学大学院生物資源学研究科, 1-31 p.

木村妙子・木村昭一・自見直人・倉持利明・藤田敏彦・駒井智幸・吉田隆太・田中隼人・岡西政典・小川晟人・小林 格・小玉将史・齋藤礼弥・清野裕暉・片平浩孝・中野裕昭・吉川晟弘・上野大輔・田中正敦・大矢佑基・前川陽一・中村 亨・奥村順哉・田中香月. 2019. 紀伊水道南方海域および熊野灘の深海底生動物相. 三重大学大学院生物資源学研究科紀要, (45): 11-50 .

木村妙子・木村昭一・角井敬知・波々伯部夏美・倉持利明・藤田敏彦・小川晟人・小林 格・自見直人・岡西政典・山口悠・広瀬雅人・吉川晟弘・福地 順・下村通誉・柏尾 翔・上野大輔・藤原恭司・成瀬 貫・櫛田優花・喜瀬浩輝・前川陽一・中村 亨・奥村順哉・田中香月. 2019. 紀伊水道南方海域および熊野灘の深海底生動物相 (第2報). 三重大学大学院生物資源学研究科, 1-29 p.

Komai, T., Naruse, T., Yokooka, H., Taru, M., Shimetsugu, M. & Watanabe, T. 2022. Redescription of *Pinnixa haematosticta* Sakai, 1934, its transfer to *Indopinnixa* Manning & Morton, 1987, and a reappraisal of *Indopinnixa kumojima* Naruse & Macnosono, 2012 (Decapoda: Brachyura: Pinnotheridae). *Zootaxa*, 5100(3): 361-389.

Komai, T., Shimetsugu, M. & Ng, P. K. L. 2019. Redescription and new records of a poorly known leucosiid crab, *Pseudophilyra punctulata* Chen & Ng, 2003, and description of a new species of *Pseudophilyra* from Japan (Crustacea: Decapoda: Brachyura). *Zootaxa*, 4550 (2): 251-267.

三重県環境森林部自然環境室編. 2006. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 三重県環境保全事業団, 498pp.

三重県農林水産部みどり共生推進課編. 2015. 三重県レッドデータブック 2015. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 757pp.

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## 哺乳類

野元彰人・岸野 底・木邑聡美. 2008. 基産地以外で初めて記録された汽水性希少カニ類クマノエミオスジガニ (ムツハアリアケガニ科). 南紀生物, 50(1): 98-102.

## 鳥 類

小川隆之. 1999. 南勢町押淵の底生動物類. 三重自然誌, (5): 29-31.

小川隆之. 2001a. 淡水産エビ・カニ類. 紀勢町史自然編 (紀勢町教育委員会編), 411-414. 紀勢町.

## 爬虫類

小川隆之. 2001b. 菅島の淡水産底生動物類. 三重自然誌, (7): 51-52.

岡 由佳理. 2004. 志摩半島の淡水エビ. 三重自然誌, (8-10): 20-22.

## 両生類

佐波征機. 1981. 三重県沿岸産異尾類目録 (I). 三重生物, (29): 24-26.

佐波征機. 1983. 三重県沿岸産異尾類目録 (II). 三重生物, (33): 29-34.

## 汽水・淡水魚類

佐波征機・富田靖男. 1984. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の異尾類相. 三重県立博物館研究報告. 自然科学, (6): 1-38.

## 昆虫類

Sakai, T. 1936. Studies on the Crabs of Japan. I. Dromiacea. Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku, sect. B, vol. 2, Suppl. no. 1: 1-66, pls. 1-9.

Sakai, T. 1937. Ditto. II. Oxystomata. Ibid., 3(2): 67-192, figs. 45, pls. 10-19.

Sakai, T. 1938. Ditto. III. Brachygnatha, Oxyrhyncha. Yokendo, Tokyo. p. 193-364, figs. 55, pls. 20-41.

Sakai, T. 1939. Ditto. IV. Brachygnatha, Brachyrhyncha. idid. p. 365-741, pls. 42-111.

酒井 恒. 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京 461pp (日本語版), 773pp (英語版), 251pp (図版).

## 甲殻類

佐藤達也編. 2023. 鳥羽市 海のレッドデータブック 2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～. 鳥羽市, 297pp.

## その他動物

縮次美穂. 2008. 伊勢湾でハマスナホリガニを発見. 自然誌だより, (76): 4.

縮次美穂. 2010. 三重県のトリウミアカイソモドキについて. 自然誌だより, (86): 4-5.

## 維管束植物

縮次美穂. 2013. 三重県におけるマメアカイソガニの記録. 南紀生物, 55(2): 159-162.

縮次美穂. 2014. 三重県におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの記録. 南紀生物, 56(1): 26-29.

## 蘚苔類

縮次美穂. 2015a. 三重県で初記録のミナミトラノオガニ. 南紀生物, 57(1): 25-26.

縮次美穂. 2015b. 本州初記録のヒラモクズガニ. 南紀生物, 57(1): 46-47.

## 藻 類

縮次美穂. 2015c. 三重県初記録のオキナソヤソラガニ. 南紀生物, 57(2): 113-114.

縮次美穂. 2016a. ヤドリカニダマシを伊勢湾から初記録. 南紀生物, 58(1): 26-29.

## キノコ

縮次美穂. 2016b. 伊勢湾におけるヨモギホンヤドカリの記録. 南紀生物, 58(2): 219-221.

縮次美穂. 2017a. ナンヨウスナガニを三重県から初記録. 南紀生物, 59(1): 91-92.

縮次美穂. 2017b. 三重県におけるヒメケフサイソガニの記録. 三重自然誌, (15): 1-3.

縮次美穂. 2023a. 三重県産カニ類 一近年の採集記録. 三重自然誌, (18): 18-24.

## EX

縮次美穂. 2023b. ヒメメナガオサガニ. 鳥羽市 海のレッドデータブック 2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～ (佐藤達也編), p.214. 鳥羽市.

## EW

## CR

縮次美穂・木村昭一. 2017. カネココブシ (コブシガニ科) を愛知県と三重県から初記録. 南紀生物, 59(2): 135-139.

## EN

縮次美穂・木村昭一. 2018. 三重県におけるウモレマメガニの記録. 南紀生物, 60(2): 255-258.

## VU

縮次美穂・木村昭一. 2019a. 三重県 (伊勢湾) 初記録のヒメクダヒゲガニ. 南紀生物, 61(1): 23-26.

縮次美穂・木村昭一. 2019b. 三重県初記録のトゲアシヒライソガニモドキ. 南紀生物, 61(2): 165-170.

## NT

縮次美穂・木村昭一. 2020. 紀伊半島のミサゴコブシ (十脚目, 短尾下目, コブシガニ科). 南紀生物, 62(2): 122-124.

縮次美穂・木村昭一. 2024. フジテガニを三重県から初記録. 南紀生物, 66(1): 51-55.

## DD

縮次美穂・木村昭一・木村妙子. 2016. 本州初記録のヤドリムツアシガニ (新称) *Hexapinus simplex* Rahayu & Ng, 2014. 南紀生物, 58(2): 157-161.

縮次美穂・佐藤達也・木村昭一. 2017. メルトガニ (三重県初記録種) を鳥羽市石鏡沖より採集. 南紀生物, 59(2): 160-162.

縮次美穂・佐藤達也・木村昭一. 2018. コブシモドキ (コブシガニ科) を三重県から初記録. 南紀生物, 60(1): 120-122.

帝積 元・山下 格. 1994. 三重県の甲殻類 (十脚目). 日本生物教育会第 49 回全国大会三重大会記念誌 三重の生物 (三重生物教育会編), 301-305. 三重生物教育会, 津.

武田正倫. 1986. 甲殻類 十脚目. 三重県その自然と動物, 三重県良書出版会, 497-532.

田中信一. 1962. 三重県産カニ類総目録. 三重生物, (12): 1-35.

田中信一. 1964. 三重県産カニ類総目録追加. 三重生物, (14): 35-44.

田中信一. 1966. 三重県産カニ類総目録 (その 3). 三重生物, (16): 53-60.

田中信一. 1973. 三重県産カニ類総目録 (その 4). 三重生物, (23): 83-94.

田中信一. 1978. 三重県産カニ類相目録 (その 5). 三重生物, (27): 3-9.

田中薫子・浜崎健児・山田 誠・青木美鈴・遊佐陽一・和田恵次. 2013. 紀伊半島 3 河川における十脚甲殻類の分布—2011 年台風 12 号による大洪水後の経時変化—. 地域自然史と保全, 35(2): 125-140.

短尾類分布調査研究会. 1983. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の短尾類相. 三重県立博物館研究報告. 自然科学, (5): 1-78.

- 上野淳一. 2007. 三重県未記録種ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* ならびに熊野灘沿岸河口域に生息するカニ類数種. 三重動物学会会報, (30): 4-5.
- 上野淳一. 2010. 南伊勢町内湾干潟における希少ガニ類の確認. 自然誌だより, (84): 4.
- 若林郁夫. 2016. 伊勢湾周辺におけるヨモギホンヤドカリの生息状況. 三重の生きものだより, (54): 6-7.
- 若林郁夫. 2017a. 三重県における未報告のヤドカリ類3種. 三重の生きものだより, (57): 6-7.
- 若林郁夫. 2017b. 三重県におけるスナガニ属の生息状況. 南紀生物, 59(2): 184-187.
- 和歌山県. 2022. 保全上重要なわかやまの自然 ―和歌山県レッドデータブック― 2022年改訂版. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 783pp.
- 山下信夫. 1940. 志摩郡産蟹類の研究 (豫報). 三重博物, 第三輯: 59-68.

(縮次美穂・伯耆匠二・木村昭一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類

## 除外種

「三重県レッドデータブック 2015」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念（LC）と判定された種、及び評価対象から除外した種とその理由は以下のとおりである。

### 新レッドリストで低懸念（LC）となった種

目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	判定理由
				新	旧		
十脚目	ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ	<i>Caridina multidentata</i> (Stimpson, 1860)	LC	DD	—	分布域が広いことに加え、各生息地における個体数も多い。また、本種を減少させる特段のリスクも認められない。
十脚目	ヌマエビ科	トゲナシヌマエビ	<i>Caridina typus</i> H. Milne Edwards, 1837	LC	DD	—	分布域が広いことに加え、各生息地における個体数も多い。また、本種を減少させる特段のリスクも認められない。
十脚目	テナガエビ科	ヒラテテナガエビ	<i>Macrobrachium japonicum</i> (De Haan, 1849)	LC	DD	—	分布域が広いことに加え、各生息地における個体数も多い。また、本種を減少させる特段のリスクも認められない。

### 新レッドリストで評価対象から除外した種

目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	判定理由
				新	旧		
十脚目	ムツアシガニ科	ムツアシガニ	<i>Hexapinus latipes</i> (De Haan, 1835)	除外	DD	—	2種に分類が分かれ、沖合で見つかる本種は調査対象外。
十脚目	ワタリガニ科	ノコギリガザミ種群	<i>Scylla</i> spp.	除外	NT	—	3種類に分類される種を種群として評価することは不相当。
十脚目	スナガニ科	ミナミスナガニ	<i>Ocypode cordimana</i> Latreille, 1818	除外	DD	—	既知の記録は誤同定の可能性がある。本土からの記録は稚ガニに限定され、本県では繁殖はしていない可能性がある。

その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

## 甲殻類レッドリスト

目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	掲載頁
				新	旧		
十脚目	カクレガニ科	アカホシマメガニ	<i>Indopinnixa haematosticta</i> (Sakai, 1934)	CR	—	NT	494
十脚目	スナガニ科	シオマネキ	<i>Tabuca arcuata</i> (De Haan, 1835)	CR	EN	VU	494
十脚目	ベンケイガニ科	フジテガニ	<i>Clistocoeloma nobile</i> Lee, Ng & Ng, 2023	CR	—	NT	495
十脚目	カニダマシ科	ウチノミカニダマシ	<i>Polyonyx utinomii</i> Miyake, 1943	EN	DD	EN	495
十脚目	ムツアシガニ科	ヤドリムツアシガニ	<i>Hexapinus simplex</i> Rahayu & Ng, 2014	EN	—	DD	495
十脚目	コブシガニ科	ハマベコブシモドキ	<i>Pseudophilypira parilis</i> Komai, Shimetsugu & Ng, 2019	EN	—	—	496
十脚目	カクレガニ科	ギボシマメガニ	<i>Pinnixa balanoglossana</i> Sakai, 1934	EN	—	VU	496
十脚目	オサガニ科	オオヨコナガピンノ	<i>Tritodynamia rathbuni</i> Shen, 1932	EN	—	EN	496
十脚目	ムツアリアケガニ科	クマノエミオスジガニ	<i>Deiratonotus kaoriae</i> Miura, Kawane & Wada, 2007	EN	VU	CR	497
十脚目	ベンケイガニ科	クシテガニ	<i>Parasesarma affine</i> (De Haan, 1837)	EN	NT	NT	497
十脚目	ヌマエビ科	ヌカエビ	<i>Paratya improvisa</i> Kemp, 1917	VU	—	—	497
十脚目	カニダマシ科	ヤドリカニダマシ	<i>Polyonyx sinensis</i> Stimpson, 1858	VU	—	NT	498

十脚目	コブシガニ科	カネココブシガニ	<i>Philyra kanekoi</i> Sakai, 1934	VU	—	DD	498	哺乳類
十脚目	ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ	<i>Clistocoeloma sinense</i> Shen, 1933	VU	NT	VU	498	鳥類
十脚目	モクズガニ科	ウモレマメガニ	<i>Pseudopinnixa carinata</i> Ortmann, 1894	VU	VU	VU	499	爬虫類
十脚目	ヌマエビ科	ヒメヌマエビ	<i>Caridina serratirostris</i> De Man, 1892	NT	DD	—	499	両生類
十脚目	スナガニ科	ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i> (De Haan, 1835)	NT	VU	VU	499	汽水・淡水魚類
十脚目	モクズガニ科	マメアカイソガニ	<i>Cyclograpsus pumilio</i> Hangai and Fukui, 2009	NT	NT	DD	500	昆虫類
十脚目	モクズガニ科	ヒメアシハラガニ	<i>Helicana japonica</i> (K. Sakai & Yatsuzuka, 1980)	NT	—	NT	500	クモ類
十脚目	モクズガニ科	ヒメケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus sinensis</i> Rathbun, 1931	NT	NT	NT	500	貝類
十脚目	モクズガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ	<i>Parapyxidognathus deianira</i> (De Man, 1888)	NT	—	—	501	甲殻類
十脚目	モクズガニ科	ヒメヒライソモドキ	<i>Ptychognathus capillidigitatus</i> Takeda, 1984	NT	NT	NT	501	その他動物
十脚目	モクズガニ科	トリウミアカイソモドキ	<i>Sestrostoma toriumii</i> (Takeda, 1974)	NT	NT	NT	501	維管束植物
十脚目	ムツハアリアケガニ科	ムツハアリアケガニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i> Stimpson, 1858	NT	DD	NT	502	苔類
十脚目	ムツハアリアケガニ科	カワスナガニ	<i>Deiratonotus japonicus</i> (Sakai, 1934)	NT	NT	NT	502	藻類
十脚目	オサガニ科	チゴイワガニ	<i>Ilyograpsus nodulosus</i> Sakai, 1983	NT	NT	—	502	キノコ
十脚目	オサガニ科	オサガニ	<i>Macrophthalmus (Macrophthalmus) abbreviatus</i> Manning & Holthuis, 1981	NT	NT	NT	503	EX
十脚目	オサガニ科	ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus (Mareotis) banzai</i> Wada & Sakai, 1989	NT	EN	NT	503	EW
十脚目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i> De Haan, 1849	DD	DD	—	504	CR
十脚目	ベンケイガニ科	ベンケイガニ	<i>Orisarma intermedium</i> (De Haan, 1835)	DD	—	NT	504	EN
十脚目	モクズガニ科	スネナガイソガニ	<i>Hemigrapsus longitarsis</i> (Miers, 1879)	DD	DD	—	504	VU
十脚目	モクズガニ科	ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i> (De Haan, 1835)	DD	—	NT	504	NT
十脚目	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i> (De Man, 1895)	DD	DD	—	504	DD
十脚目	オサガニ科	ヒメメナガオサガニ	<i>Macrophthalmus (Macrophthalmus) microfylacas</i> Nagai, Watanabe & Naruse, 2006	DD	—	—	504	

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

## アカホシマメガニ

十脚目 カクレガニ科

*Indopinnixa haematosticta* (Sakai, 1934)

【選定理由】既知の生息地点は2地点のみ。生息条件の悪化。希少。  
 【種概要】雄の甲長は1.8~3.6 mm, 雌(抱卵)の甲長は1.9~4.2 mm, 甲幅は甲長の2.1~2.3倍の横長。甲背面は生時に時折り赤褐色の斑紋がある。心域を横切る稜線は顕著である。第3歩脚は大きく、後面には羽状毛が密生し、長節は前縁にも羽状毛が密生する。第1及び第2歩脚の腕節と前節の上縁は鋭く稜線をなす。

【分布】太平洋側では神奈川県から種子島、日本海側では山口県に分布する日本固有種。県内では、2015年と2017年に鳥羽市浦村から2個体が、2022年に熊野市新鹿海岸より1個体が記録されている。新鹿海岸からは2023年から2024年にかけても9個体が採集されているが、いずれもタマシキゴカイの巣穴から得られたものである。(筆者、未発表)

【現況・減少要因】生息数は極めて少なく、鳥羽市浦村では近年の調査で追加個体が採集されていない。

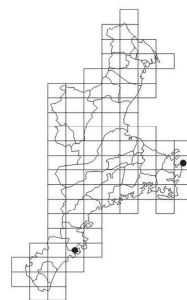
【保護対策】現存の生息地を保全する。継続した種の調査が必要である。

【特記事項】三宅(1983)および渡部(2012)が本種と記載している種は、第3歩脚長節後面に濃密な羽状毛を欠くことなどから、近似の未記載種と思われる。

【文献】8, 12, 28, 43, 68.

(縮次美穂)

(写真:熊野市, 2024年, 縮次美穂採集, 木村昭一撮影, 千葉県立中央博物館所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

## シオマネキ

十脚目 スナガニ科

*Tubuca arcuata* (De Haan, 1835)

【選定理由】既知の生息地点は5以下。良好な塩性湿地に生息する種で、環境指標性がある。近年では生息の確認ができていない地点もある。希少。

【種概要】日本産シオマネキ類では最大種で、甲幅約35 mm。雄は片方の鉗脚が巨大化するが、雌の鉗脚は小さく左右相称である。甲背面に網目模様があり、雄の大鉗脚には顆粒が密生し、長節、腕節、掌部にかけて朱赤色。雌の鉗脚は全体に朱赤色。内湾や河口域の塩性湿地周辺の泥質干潟に生息する。雄は繁殖期に大鉗脚を上下に動かすwavingを行う。しばしば、巣穴口にチムニー(chimney)と呼ばれる低い煙突状の泥の構築物を作る。

【分布】国外では韓国, 中国, 香港, 台湾, ベトナム。国内では千葉県から沖縄県。県内では津市, 松阪市, 鳥羽市, 志摩市, 南伊勢町。

【現況・減少要因】国内の分布状況は分布北限が千葉県にまで拡大している中、県内の生息状況は危機的である。既産地5地点のうち、今回の調査では2地点からしか確認できず、新産地も発見できなかった。県下最大のコロニーを有した南伊勢町の伊勢路川河口では、かつて様々なサイズの約20個体が観察されていたが、2011年から2012年にかけて行われた水門工事の後、生息数は数個体と激減し未だ回復傾向が見られない。

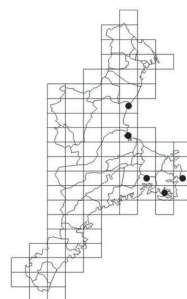
【保護対策】塩性湿地を改変しない。現存の生息地を保全する。

【特記事項】三重県指定希少野生動物種。日本ベントス学会(2012)はVUに選定している。

【文献】1, 19, 24, 29, 43.

(縮次美穂)

(写真:津市, 2005年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

## フジテガニ

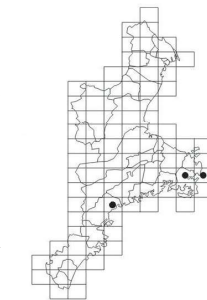
*Clistocoeloma nobile* Lee, Ng & Ng, 2023

十脚目 ベンケイガニ科

- 【選定理由】 生息地点は3地点のみ。開発などによる人為圧力が強い。希少。  
【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲幅14.7 mm。河口域の高潮帯の転石下などに生息する。同属のウモレベンケイガニに類似しており、同所的に生息することもあるが、ウモレベンケイガニは動きが緩慢であるのに対し、本種は動きが素早い。また、本種は甲背面の凹凸が少なく、鉗脚の掌部が淡い藤色になることから識別できる。なお、この鉗脚の特徴が種小名及び和名の由来になっている。  
【分布】 国外では、シンガポール、韓国、台湾、香港、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドネシア、カロリン諸島、ニューギニア。国内では房総半島、伊豆半島南部、和歌山県、奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、西表島。県内では鳥羽市と紀北町（筆者、未発表）で生息が確認されている。  
【現況・減少要因】 県内いずれの生息地でも生息数は極めて少ない。本県で採集された個体の多くは、ハマボウの根際や枝陰の礫下から発見された。  
【保護対策】 河口域の高潮帯を改変せず保全する。  
【特記事項】 2023年に新種記載された。日本ベントス学会（2012）はNT。  
【文献】 19, 52.

（縮次美穂）

（写真：鳥羽市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影，千葉県立中央博物館所蔵）



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

## ウチノミカニダマシ

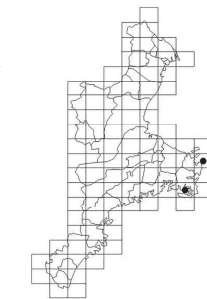
*Polyonyx utinomii* Miyake, 1943

十脚目 カニダマシ科

- 【選定理由】 県内における既知の生息地点は4地点のみである。生息環境の悪化による宿主生物の減少に伴って個体数が減じていると考えられる。  
【種概要】 甲幅2.9~8.1 mmで雌のほうが大型になる。甲幅/甲長比は1.4。甲背面に多数の条線が横に走る。生時には、甲背面に長短の横筋が認められるほか、甲背面、鉗脚、歩脚に赤褐色の斑紋が散在する。砂泥質干潟に生息するツバサゴカイの棲管内に共生しており、しばしば同一棲管内に雌雄1対で認められる。  
【分布】 伊豆半島、紀伊半島、瀬戸内海、浦ノ内湾、有明海に分布する日本固有種。三重県内においてはこれまでに、鳥羽市菅島の1地点及び志摩市英虞湾の3地点から採集されている。  
【現況・減少要因】 干潟の環境悪化により、宿主であるツバサゴカイの生息数の減少に伴って本種の個体数も減少していると考えられる。  
【保護対策】 砂泥質干潟の保全が必要である。  
【特記事項】 写真はツバサゴカイの棲管内に棲息する雌雄ペア。日本ベントス学会（2012）はENに選定している。  
【文献】 11, 23, 40, 45.

（伯耆匠二・縮次美穂）

（写真：志摩市，2016年，縮次美穂採集）



三重県 2025

EN

三重県 2015

DD

環境省 2020

EN

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヤドリムツアシガニ

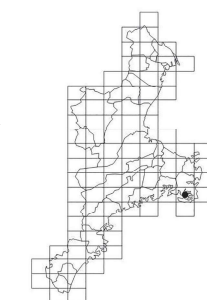
*Hexapinus simplex* Rahayu & Ng, 2014

十脚目 ムツアシガニ科

- 【選定理由】 既知の生息地点は3地点のみ。生息環境の悪化による宿主の減少に伴って本種の生息数も減じていると考えられる。希少。  
【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲長9.2 mm。甲は横に長い台形をなし、甲幅は甲長の約1.5~1.6倍である。背甲の表面は滑らかで、細かい穴が散在する。前側縁は弓状で、後側縁は波状の2葉状を形成する。本県で得られた17個体では、雄の鉗脚は左右不均等で、雌の鉗脚は左右等大であった。本県には本種の外、近縁種のムツアシガニも記録される。ムツアシガニは、甲幅が甲長の約1.2~1.3倍で、後側縁が1葉状であり、生息場所も深場であるなどから本種と識別できる。  
【分布】 国外では、中国、台湾、南シナ海、シンガポール、インドネシア。国内では英虞湾、田辺湾、紀伊半島、大阪湾、高知、天草、琉球列島。県内では志摩市。  
【現況・減少要因】 宿主であるツバサゴカイが減少し、それに依存している本種も危機的な状況である。  
【保護対策】 ツバサゴカイが生息できる干潟環境を保全する。  
【特記事項】 日本ベントス学会（2012）で、ENに選定されているムツアシガニは本種を示す。  
【文献】 18, 19, 24, 26, 53.

（縮次美穂）

（写真：志摩市，2016年，縮次美穂採集，木村昭一撮影，千葉県立中央博物館所蔵）



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ハマバコブシモドキ

十脚目 コブシガニ科

*Pseudophilyra parilis* Komai, Shimetsugu & Ng, 2019

【選定理由】生息地点は5以下。希少。  
 【種概要】志摩市大王町船越がタイプ産地。既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲幅9.5 mm。甲は洋梨形で甲面は凸状をなし、細かな点刻を密布する。側縁には顆粒列を有する。裁断状の額の中央に、鈍頭のやや小さい1歯を有す。鉗脚は長節を除いて光沢がある。長節は大小不揃いの顆粒で覆われている。腕節は短く、掌部は比較的平らで、わずかに広がる。歩脚は細長くて、第1～第4歩脚の形状は同じく、長さは徐々に短くなる。本種は、近隣のミナミコブシモドキ *P. punctulata* に比べ甲側縁を縁取る顆粒が粗く、また雄の第1腹肢の先端部がさほど湾曲していない。また、マゲジマコブシモドキ *P. tridentata* は甲面と胸部腹甲の表面がより滑らかで、甲の形状も異なり、鉗脚掌部が太めであることによっても識別できる。

【分布】三重県、和歌山県、熊本県（筆者、未発表）。県内では志摩市、紀北町（筆者、未発表）、熊野市。

【現況・減少要因】浅い潮下帯の砂底（一部地域では岩礁域の砂底）に生息するが、タイプ産地では砂が減り生息数が減少している。

【保護対策】生息地である清浄な干潟環境を保全する。

【文献】9, 51.

（縮次美穂）

（写真：熊野市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影）



三重県 2025

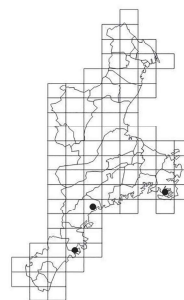
EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—



### ギボシマメガニ

十脚目 カクレガニ科

*Pinnixa balanoglossana* Sakai, 1934

【選定理由】既知の生息地点は5以下。宿主であるミサキギボシムシが減少傾向にあるため、本種の生息数も減じていると考えられる。

【種概要】日本産メガニ属の中でも大型の種で、本県で採集された最大個体は、雌甲幅13.9 mm。甲は横に長く、甲幅は甲長の2倍に及ぶ。雌は雄より大きくなる。砂泥底に生息するミサキギボシムシの巢穴に共生する。甲面は平滑で前後に強く湾曲するが、中央は横に平坦で、心域には明瞭な稜線が横に走る。前側縁と後側縁は丸く張り出す。鉗脚は細く、咬合縁には歯が無く、隙間を生じない。第1歩脚は最も細く、第4歩脚は最も短く、第3歩脚は最大で、その長節および前節の後縁周辺に顆粒を有す。

【分布】能登半島、東京湾～瀬戸内海、有明海に分布する日本固有種。県内では松阪市と鳥羽市で記録されている。

【現況・減少要因】ミサキギボシムシは砂泥を掘ってみないと存在が判明しない。宿主は減少傾向にあるため、本種も減じていると考えられる。

【保護対策】現存のミサキギボシムシの生息地を保全する。

【特記事項】答志島桃取をタイプ産地とする。日本ベントス学会（2012）はENに選定している。

【文献】19, 28, 41, 48.

（縮次美穂）

（写真：鳥羽市，2015年，縮次美穂採集，木村昭一撮影，千葉県立中央博物館所蔵）



三重県 2025

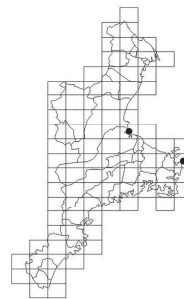
EN

三重県 2015

—

環境省 2020

VU



### オオヨコナガピンノ

十脚目 オサガニ科

*Tritodynamia rathbuni* Shen, 1932

【選定理由】既知の生息地点は5以下。生息環境の悪化による宿主の減少に伴って、本種の生息数も減じていると考えられる。

【種概要】甲幅約20 mm。主に、潮間帯～潮下帯の砂底または砂泥底に生息するツバサゴカイの棲管内に共生する。甲は横長の円筒形。前方に強く湾曲し、茶褐色の不明瞭な斑紋をもつ。鉗脚は長節の前縁および掌節の下縁に毛が列生している。歩脚は、第2歩脚が最も発達しており、第3歩脚がこれに次ぐ。第3・4歩脚は前後縁に羽毛状の軟毛を密生する。指節先端は鋭く尖り、宿主の棲管を切り裂いて侵入、脱出を行う。歩脚を用いて遊泳することがある。

【分布】国外は南東シベリア、韓国黄海沿岸、中国北部、山東半島（タイプ産地）。国内は東京湾以西の太平洋岸、瀬戸内海、九州に分布する。県内では松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、紀北町で記録される。

【現況・減少要因】主な宿主であるツバサゴカイが減少しており、ツバサゴカイに依存する本種も危機的であると考えられる。

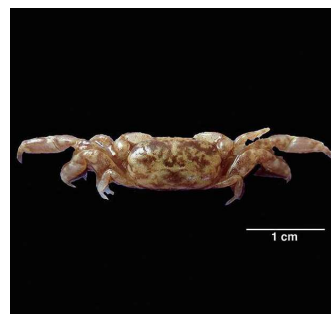
【保護対策】ツバサゴカイが生息できる干潟環境を保全する。

【特記事項】日本ベントス学会（2012）はVUに選定している。

【文献】5, 19, 27, 29, 43, 57, 66, 71.

（縮次美穂）

（写真：志摩市，2016年）



三重県 2025

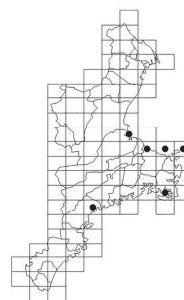
EN

三重県 2015

—

環境省 2020

EN



### クマノエミオスジガニ

十脚目 ムツハアリアケガニ科

*Deiratonotus kaoriae* Miura, Kawane & Wada, 2007

【選定理由】既知の生息地点は10程度。本県と宮崎県の個体群は遺伝子的には全く異なる特徴をもつ。近年では生息の確認ができていない地点もある。希少。

【種概要】本県で採集された最大個体は雌甲幅11.8mm。甲背面の心域と鰓域にそれぞれ稜線が横に走り、腹部の一部が赤く、近縁種であるアリアケモドキに類似するが、甲長の1.3倍前後の甲幅を有する横長のアリアケモドキに比べ、本種の甲幅は甲長の1.2倍程度であり、雄の第1腹肢先端に剛毛がないことなどで識別される。なお、本県では抱卵個体が春季に見つかっている。

【分布】三重県、宮崎県、長崎県に分布する日本固有種。県内では津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市の清浄な河川河口域の砂泥質干潟周辺の滲筋に埋る。

【現況・減少要因】近年、的矢湾から新産地が記録され、伊雑ノ浦では生息数は不安定。一方、伊勢湾沿岸の既産地については、現在、確認が困難な地点もあり、河口域や内湾の環境変化が生息数減少の一因と考えられる。

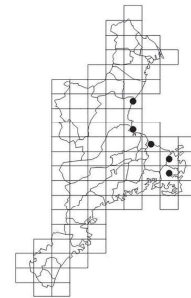
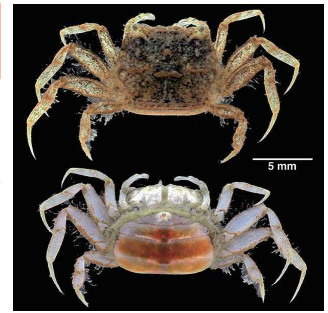
【保護対策】河口干潟の保全。継続した種の調査が必要である。

【特記事項】日本ベントス学会(2012)はCR。

【文献】4, 19, 20, 29, 43, 54。

(縮次美穂)

(写真：志摩市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

CR

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

### クシテガニ (オオユビアカベンケイガニ)

十脚目 ベンケイガニ科

*Parasesarma affine* (De Haan, 1837)

【選定理由】生息地点は5以下。生息環境の悪化に伴い、生息数が減少している。希少。

【種概要】甲幅約28mmに達する。甲は横長の四角形で体色は褐色で暗色の群雲模様が入る。鉗脚の掌部は橙色。指部は深紅で、可動指上縁には、雄では8~9個、雌では6~7個の楕円形の結節状顆粒が並ぶ。歩脚の長節が幅広く指節は細長い。河口のヨシ原上部などやや硬い底質に巣穴を掘って生息する。

【分布】国外では、台湾および中国沿岸(香港まで)。国内では千葉県(東京湾)から九州にかけて分布する。県内では、津市、松阪市、伊勢市で生息が確認されている。

【現況・減少要因】河口のヨシ原内や流木等の堆積物の下で生息を確認している。県内いずれの生息地点でも生息数は極めて少ない。護岸工事によるヨシ原の消失やヨシ原の減少化で本種の生息地が減少している。

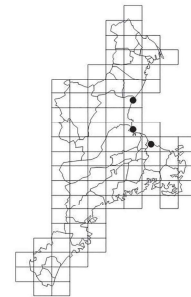
【保護対策】ヨシ原上部を改変しない。

【特記事項】日本ベントス学会(2012)はVUに選定している。

【文献】6, 19, 57, 61, 71。

(縮次美穂)

(写真：津市，2023年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ヌカエビ

十脚目 ヌマエビ科

*Paratya improvisa* Kemp, 1917

【選定理由】県内における生息確認地点数は5未満と少なく、外来魚の捕食による生息地の消滅が危惧される。

【種概要】従来、ヌマエビの亜種とされてきたが、遺伝学的・生態学的知見に基づき、ヌマエビ中・大卵型とともに別種ヌカエビとして整理された。大卵(長径0.75mm, 短径0.48mm)。淡水性。三重県内の個体は頭胸甲上に0~2本の歯を有する。

【分布】近畿地方から東北地方の河川および湖沼に生息し、三重県は本種の分布南限にあたる。現在明らかになっている県内の生息地は、伊勢市、度会郡の3地点のみである。

【現況・減少要因】県内における過去の記録は1例のみで、詳細な生息状況に関する報告はない。今回確認された本種の生息地は、いずれもウシモツゴ、カワバタモロコなどの希少淡水魚が生息する溜め池であった。生息地の近隣であっても、ブルーギルやブラックバスなどが侵入した水域では本種が確認できなかったことから、これらの外来魚の捕食によって生息地が減少した可能性が考えられる。

【保護対策】県内における生息地を早急に把握した上で、生息地への外来魚の放流・侵入を防ぐ措置が必要である。

【文献】2, 3, 55。

(伯耆匠二)

(写真：伊勢市，2024年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

非公表

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類

### ヤドリカニダマシ

十脚目 カニダマシ科

*Polyonyx sinensis* Stimpson, 1858

【選定理由】生息環境の悪化による宿主生物の減少に伴って個体数が減じていると考えられる。

【種概要】甲幅3.9~6.7 mm, 甲幅/甲長比は約1.3で, 雌のほうが大型かつ幅広い。生時には, 背甲, 鉗脚, 歩脚の表面は艶のある榛色~灰汁色で, 暗褐色の斑紋が入る。砂泥質干潟に生息するムギワラムシの棲管内に共生する。

【分布】日本では, 田原湾, 紀伊半島沿岸, 瀬戸内海, 浦ノ内湾, 日向灘, 有明海, 八代海に分布する。県内では三重郡, 津市など伊勢湾内の干潟において採集記録がある。

【現況・減少要因】三重県においては, 2016年に初めて本種の生息が報告されたため, それより過去の生息状況は不明である。しかし, 本種の宿主であるムギワラムシは伊勢湾において著しい減少傾向にあるとされていることから, 本種も宿主と同等かそれ以上に個体数を減じていると考えられる。

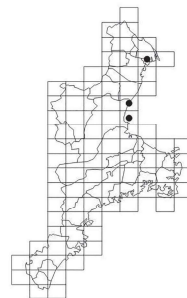
【保護対策】砂泥質干潟の保全が必要である。

【特記事項】日本ベントス学会(2012)はVUに選定している

【文献】23, 37, 70.

(伯耆匠二・締次美穂)

(写真:津市, 2016年, 締次美穂採集, 木村昭一撮影, 千葉県立中央博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

### カネココブシガニ

十脚目 コブシガニ科

*Philyra kanekoi* Sakai, 1934

【選定理由】生息地点は5以下。希少。

【種概要】既知の記録によると, 本県で採集された最大個体は雌甲幅9.4 mm。現在では属は異なるもののマメコブシガニに似る。甲長は甲幅にほぼ等しく, 菱形に近い。甲表面の凹凸が著しく, 甲面中央が盛り上がる。鉗脚の顆粒はマメコブシガニより強い。歩脚長節・前節の後縁に顆粒を有するが, マメコブシガニでは欠くため重要な同定ポイントになる。生息環境もマメコブシガニに似ていて, 河口域で本種とともに発見されることもあるが, 本種はやや深場の潮下帯砂泥底やアマモ場, また砂泥の堆積した岩礁地にも生息する。

【分布】国外では韓国(済州島)に分布する。国内では函館湾, 新潟県, 房総半島, 相模湾, 伊豆半島, 三河湾, 和歌山県, 大阪湾, 玄海灘, 長崎県, 天草, 宮崎県から記録されている。県内では, 鳥羽市, 志摩市から記録されている。

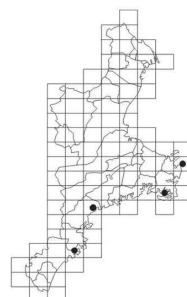
【現況・減少要因】新たに紀北町及び熊野市の, 砂泥の堆積した岩礁地から採集された(未筆, 未発表)が, 生息数は極めて少ない。

【保護対策】現存の生息地を保全する。種の継続した調査を行う必要がある。

【文献】46, 50.

(締次美穂)

(写真:愛知県, 2016年, 木村昭一採集撮影, 画像下(幼体), 志摩市, 2017年, 締次美穂採集, 木村昭一撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

DD

### ウモレベンケイガニ

十脚目 ベンケイガニ科

*Clistocoeloma sinense* Shen, 1933

【選定理由】生息地点は10以下。塩性湿地上部で, 流木等漂着物や転石の下に生息することから, 護岸工事などによる人為圧力が強い。生息数が減少している。希少。

【種概要】甲幅約16 mm。甲背面には大小の隆起がある。雄の鉗脚可動指の上縁には11~14個の結節状顆粒が並ぶ。鉗脚の掌部と指部を除き, 体には短毛が束状になって散在しており, 生時には泥に覆われている。動作は緩慢で, 捕まえても動かない個体が見られる。

【分布】国外ではロシア極東, 韓国, 台湾, 中国。国内では, 東京湾(太平洋側)新潟県(日本海側)から九州。県内では, 松阪市, 伊勢市, 鳥羽市, 志摩市から記録されている。

【現況・減少要因】津市及び南伊勢町で新たな生息地を確認している(筆者, 未発表)が, 県内いずれの生息地点でも生息数は極めて少ない。

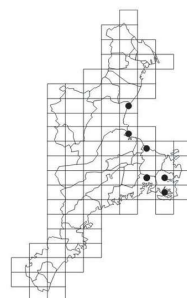
【保護対策】塩性湿地を改変しない。種の継続的な調査が必要である。

【特記事項】日本ベントス学会(2012)はEN。

【文献】15, 19, 57, 61, 63, 67.

(締次美穂)

(写真:鳥羽市, 2023年, 締次美穂採集, 木村昭一撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

## ウモレマメガニ

十脚目 モクズガニ科

*Pseudopinnixa carinata* Ortmann, 1894

【選定理由】 既知の生息地点は20以下。人為的な環境変化により生息地が減少している。

【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲幅8.6 mm。一属一種の希少種で、ニホンスナモグリ等の巣穴に共生する。砂泥中から見つかることもあり、宿主への依存度等、生態は不明である。

【分布】 太平洋側では千葉県犬吠埼から紀伊半島、瀬戸内海、四国、天草、日本海側では秋田県から新潟県、鳥取県及び山口県に分布する日本固有種。県内では、川越町、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、熊野市で記録されている。

【現況・減少要因】 分布域は比較的広く、群生する地域もあるが、消波堤や石積堤の設置により環境が悪化し生息地が消失している。

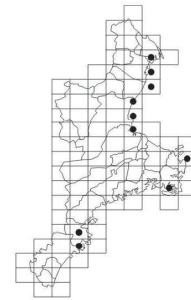
【保護対策】 現存の生息地を保全する。生態に不明な点が多いので今後の調査研究が望まれる。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はVUに選定している。2012年カクレガニ科からモクズガニ科に変更された。

【文献】 19, 29, 43, 47.

(締次美穂)

(写真：尾鷲市，2015年，締次美穂採集，木村昭一撮影，千葉県立中央博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

## ヒメヌマエビ

十脚目 ヌマエビ科

*Caridina serratirostris* De Man, 1892

【選定理由】 伊勢市以南の県南部に広く分布すると考えられるが、今回の調査で生息が確認された地点における生息密度は概して低く、生息環境も比較的限定的である。

【種概要】 体長は、雄で10~14 mm、雌で12~20 mm程度であり、同属他種と比較して小型である。生時の体色には複数の型が認められ、鮮やかな赤みを帯びた個体が多い。両側回遊性。

【分布】 日本では本州中部以南、四国、九州、南西諸島に分布する。三重県内では伊勢市、鳥羽市、度会郡、南牟婁郡にて採集された。

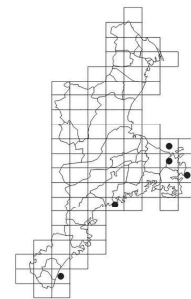
【現況・減少要因】 県内における過去の採集記録は2例のみであるため、個体数の変動傾向は不明である。今回の調査においては、下流・河口域の抽水植物の根元から採集されたが、いずれの採集地点においても採集個体数は少なかった。護岸工事などによって生息場所である抽水植物群落が増減・消失した場合、個体数がさらに減少する可能性が考えられる。

【保護対策】 県内における分布状況を把握するとともに、生息場所である河川下流・河口域における抽水植物群落の保全が必要である。

【文献】 2, 21, 22.

(伯耆匠二)

(写真：伊勢市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ハクセンシオマネキ

十脚目 スナガニ科

*Austruca lactea* (De Haan, 1835)

【選定理由】 既知の生息地点は20以下。良好な干潟環境に生息する種で、環境指標性がある。護岸工事などによって生息地が破壊されやすい。

【種概要】 甲幅約20 mm。堅い砂泥質干潟の高潮帯に生息するが、鳥羽市など一部干潟ではやや礫が混ざる環境である。雄は鉗脚の片方が巨大化するが、雌の鉗脚は小さく左右相称である。夏の繁殖期には、雄が白い大鉗脚を振り動かすダイナミックなwavingや、巣穴横にフード(hood)と呼ばれる砂泥構築物が観察される。また、巣穴内で求愛音を発することも報告されている。種小名のlacteaは乳白色のという意味で、繁殖期に体色が雌雄ともに白くなる(写真)ことに由来する。なお、雄の鉗脚は平滑。

【分布】 国外では朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム。国内では千葉県から九州、種子島に分布する。県内では四日市市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町で生息が確認されている。

【現況・減少要因】 生息地点数、生息数も増加傾向にあるが、生息数は数個体から数千個体程度と地域差が大きい。

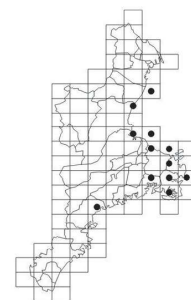
【保護対策】 生息場所である干潟の上部は、堤防改修工事などによって破壊や改変をされやすいため、生息地の保全に細心の注意を払う必要がある。

【特記事項】 三重県指定希少野生動物植物種。日本ベントス学会（2012）はNTに選定している。

【文献】 1, 17, 19, 29, 30, 31, 43, 56, 57, 58.

(締次美穂)

(写真：津市，2023年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類

### マメアカイソガニ

十脚目 モクズガニ科

*Cyclograpsus pumilio* Hangai & Fukui, 2009

【選定理由】 既知の生息地点は 20 以下。本種の生息する転石海岸では海岸生物も豊かである。

【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲幅 9.7 mm。外洋に面した転石海岸の満潮線状の礫中に生息する。アカイソガニに酷似しているが小型である。また、アカイソガニの歩脚は、長節・腕節は平滑無毛で、前節後縁と指節にごく短く毛が生えるのに対し、本種の雄では、第 1～3 歩脚の長節・前節・指節の後縁に長い毛が列生する。雌では歩脚後縁に短い毛が列生する。

【分布】 太平洋岸では房総半島以南種子島まで、日本海岸では石川県以南長崎県まで分布する日本固有種。県内では鳥羽市から尾鷲市にかけての転石海岸で確認される。

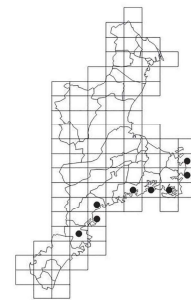
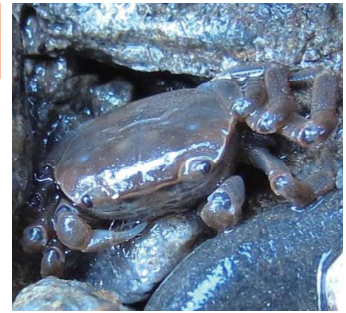
【現況・減少要因】 海水浴場等が造られ人工海岸が目立つ。本種は人工海岸でも確認されているが生息数は少ない。

【保護対策】 2009年に新種記載された。

【文献】 29, 33, 67.

(縮次美穂)

(写真：紀北町，2012年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	DD

その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

### ヒメアシハラガニ

十脚目 モクズガニ科

*Helicana japonica* (K. Sakai & Yatsuzuka, 1980)

【選定理由】 既知の生息地点は 10 以下。

【種概要】 甲幅約 25 mmに達する。背甲は灰褐色から茶褐色で不明瞭な斑模様がある。近縁種のアシハラガニは、成体の色彩が暗青緑色であるほか、本種では第 1～4 歩脚の腕節・前節の前縁に軟毛が密生している（第 4 歩脚では少ない）のに対し、アシハラガニでは第 3・第 4 歩脚に軟毛がなく、アシハラガニでは前側縁の眼後歯は内側に向くが、本種では前側縁の眼後歯は内側に向かないことなどから識別できる。また、本種は砂泥質の干潟に巣穴を掘り、ヨシの生育していない区域に生息。アシハラガニより小型で生息域は狭いが、歩脚が長く俊足で捕食性が強く、小型のカニ類を襲って食べる。

【分布】 国外では韓国と中国北部、国内では千葉県から九州に分布。県内では津市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市から記録されている。

【現況・減少要因】 餌となるカニ類が生息する干潟面積が狭く、生息地の環境は良好とはいえない。

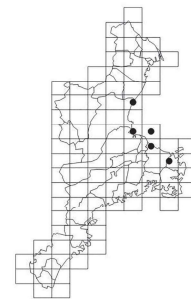
【保護対策】 干潟を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はNT。

【文献】 13, 19, 57, 61, 63, 69.

(縮次美穂)

(写真：津市，2005年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	NT

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### ヒメケフサイソガニ

十脚目 モクズガニ科

*Hemigrapsus sinensis* Rathbun, 1931

【選定理由】 既知の生息地点 10 未満。希少。

【種概要】 既知の記録によると、本県での採集された最大個体は雌甲幅 12.1 mm。雄よりも雌の方が大きくなる。潮間帯中部から下部のカキ礁に生息する。同所的に生息する同属のケフサイソガニや タカノケフサイソガニに類似するが、両種は雄の鋏の基部に毛の房を有するものの雌の鉗脚は無毛であるのに対し、本種は雌雄ともに鉗脚掌部に軟毛を有し、また軟毛が生える範囲が広く、掌部外面の半分以上が大量の軟毛に覆われ房状となることなどから識別できる。なお、両種の動きが素早いのにに対し、本種は動作が緩慢である。甲面の中央やや上に白い横帯、下方中央に白い斑紋を有する個体が多い。

【分布】 タイプ産地は中国福建省北部。国内では愛知県、紀伊半島沿岸、大阪湾、瀬戸内海、有明海。県内では、鈴鹿市、津市、志摩市で記録されている。

【現況・減少要因】 河川改修や水質悪化等による河口部の攪乱により減少傾向にある。

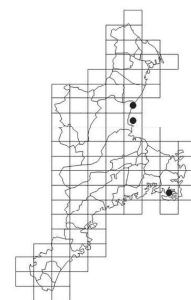
【保護対策】 現存のカキ礁を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はVUに選定している。写真は抱卵個体。

【文献】 19, 39.

(縮次美穂)

(写真：津市，2009年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	NT

### トゲアシヒライソガニモドキ

十脚目 モクズガニ科

*Parapyxidognathus deianira* (De Man, 1888)

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類

甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

【選定理由】 既知の生息地点は 20 以下，近年生息数が減少している。

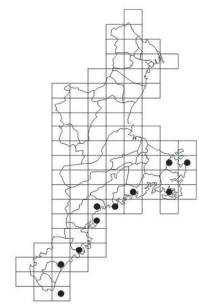
【種概要】 既知の記録によると，本県で採集された最大個体は雌甲幅 12.4 mm. 甲は，わずかに前方に湾曲し，背側に盛り上がる．甲幅は甲長のおよそ 1.3 倍．前側縁には眼窩外歯を含めて 3 歯を有する．鉗脚の腕節には上縁先端に 1 棘を有する．不動指，可動指ともに先端部が黄色く，鉗の咬合縁先端は馬蹄形を成す．雌の鉗脚は左右同大であるが，雄は鉗脚が左右同大のものと左右不同のものが見られる．歩脚は，指節と長節の前縁と後縁および腕節の前縁に長毛が列生する．前節後縁先端に 1 棘，長節後縁先端寄りに長大な 1 棘（場合によって小棘を伴うこともある）がある。

【分布】 国外では，インド，西太平洋．国内では千葉県から沖縄県．県内では鳥羽市，志摩市，南伊勢町，大紀町，紀北町，尾鷲市，熊野市で記録されている。

【現況・減少要因】 2019年に県内で初めて記録されたが，その後生息地点数及び生息数が減少している．河川下流域の流程の単純化や，護岸工事による河川の直線化による影響が懸念される．

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はNTに選定している。

【文献】 19, 29, 43, 49, 61.



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

（縮次美穂）

（写真：熊野市，2019年，縮次美穂採集，木村昭一撮影，千葉県立中央博物館所蔵）

### ヒメヒライソモドキ

十脚目 モクズガニ科

*Ptychognathus capillidigitatus* Takeda, 1984

【選定理由】 既知の生息地点は 20 程度．伊勢湾口から熊野灘沿岸の河口域に分布するが，本種よりも上流域に生息する同属のタイワンヒライソモドキよりも，記録される地域が限定的である。

【種概要】 既知の記録によると，本県で採集された最大個体は雄甲幅 10.3 mm. 河口域の転石潮間帯の下部周辺に生息する．甲背面は滑らかで光沢がある．側縁は直線的で後方に向かい顕著に狭まり二つの切り込みがある．眼窩は広く，眼柄はやや長い．雄の鉗脚には不動指の外側に長い軟毛の房がある。

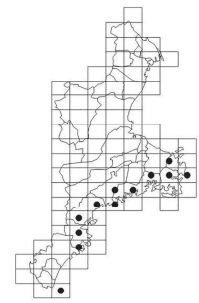
【分布】 神奈川県（相模湾）から沖縄諸島に分布する日本固有種．県内では鳥羽市から熊野市にかけて記録される．

【現況・減少要因】 河川改修による生息地の破壊，土砂災害による生息地の環境悪化が一時的に見られ，生息数の減少が危惧される．

【保護対策】 現存の生息地を保全し，種の継続した調査を行う必要がある．

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はNTに選定している。

【文献】 19, 29, 35, 43, 61.



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	NT

（縮次美穂）

（写真：紀北町，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影）

### トリウミアカイソモドキ

十脚目 モクズガニ科

*Sestrostoma toriumii* (Takeda, 1974)

【選定理由】 生息地点は 20 以下．生息条件の悪化．

【種概要】 既知の記録によると，本県で採集された最大個体は雄甲幅 6.5 mm. 雄が雌より大きくなる．砂泥質干潟に生息するアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に共生する．和名は，標本採集者である東北大学の鳥海衷博士に由来する．甲背面はやや横長の丸みを帯びた四角形で，平滑無毛．側縁に歯はない．鉗脚指部内縁には細かな歯が並び，先端が尖る．歩脚先端は鋭く爪状である．甲，鉗脚及び歩脚に見られる斑紋には個体差が見られる．雄の眼窩下縁には 9 個の平圧された顆粒が並び，同属他種と識別できる．

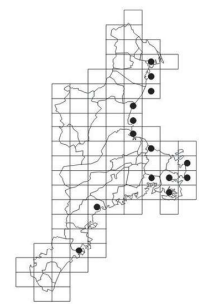
【分布】 国外では韓国，香港．国内では函館湾から八重山諸島西表島まで分布する．宮城県女川湾がタイプ産地．県内では，川越町，四日市市，鈴鹿市，津市，松阪市，鳥羽市，志摩市，南伊勢町，尾鷲市，熊野市で生息を確認している（筆者，未発表を含む）．

【現況・減少要因】 分布域は広いが多産地は限られており，本種の生息地である砂泥質の干潟は減少傾向にある．

【保護対策】 アナジャコ類やスナモグリ類の生息する砂泥質干潟を保全する．

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はNT．

【文献】 7, 19, 24, 29, 32, 43.



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	NT

（縮次美穂）

（写真：鳥羽市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影）

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類

### ムツハアリアケガニ

十脚目 ムツハアリアケ科

*Camptandrium sexdentatum* Stimpson, 1858

【選定理由】 既知の生息地点は 10 程度。

【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲幅 10.3 mm。低潮帯の泥質干潟に生息する。甲は六角形。和名は、甲前側縁に 3 歯あり、左右合わせて 6 歯あることに由来する。背甲の表面は凹凸が明瞭である。歩脚には指節に至るまで軟毛が密生しており、生時には体全体に泥が付着している。雄の第 1 腹肢は、著しく長く複雑な形をしており、その一部が腹の両脇に露出している個体も見られる。冬は多くの個体が潮下帯に移動するといわれている。

【分布】 国外では黄海、中国北部、香港、東南アジア。国内では宮城県から九州。県内では津市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町（筆者、未発表）、紀北町で生息が確認されている。

【現況・減少要因】 近年の調査で、新たな生息地が次々に明らかになったが、いずれの生息地においても確認個体数は少ない。

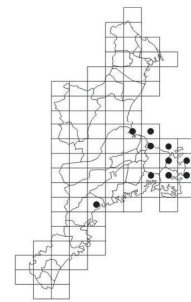
【保護対策】 現存の生息地を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）は NT に選定している。

【文献】 19, 29, 32, 43.

（縮次美穂）

（写真：鳥羽市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影）



三重県 2025
NT
三重県 2015
DD
環境省 2020
NT

甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

### カワスナガニ

十脚目 ムツハアリアケ科

*Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934)

【選定理由】 既知の生息地点は 15 程度。清浄な河川河口域の主に転石下に生息する種で、環境指標性がある。個体群間の遺伝的変異が顕著であるとされ、個々の個体群を保全する意義が大きい。希少。

【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雄甲幅 12.1 mm。甲はやや横長の丸みを帯びた四角形で、顆粒が密生し、疎らに毛が生える。肝域、腸域がわずかに隆起している。前側縁は眼窩外歯を加えて、低く鈍い 3 歯よりなる。鉗脚は雌より雄の方が太くなる。掌部外面は微小な顆粒で覆われ、指部の先端はスプーン状である。歩脚も、微小な顆粒で覆われ、第 2～第 4 節の長節と前節の後面には軟毛が密生する。雌ではこれらの軟毛が少ない。体の色模様は変化に富んでいる。

【分布】 房総半島以南に生息する日本固有種。県内では熊野灘沿岸の広い範囲で記録される。

【現況・減少要因】 河川改修による生息地の破壊、土砂災害による生息地の環境悪化が一時的に見られ、生息数の減少が危惧される。

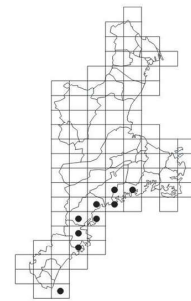
【保護対策】 現存の生息地を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）は NT に選定している。

【文献】 19, 28, 34, 43, 61.

（縮次美穂）

（写真：紀北町，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影）



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
NT

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### チゴイワガニ

十脚目 オサガニ科

*Ilyograpsus nodulosus* Sakai, 1983

【選定理由】 既知の生息地点は 20 以下。

【種概要】 本県で採集された最大個体は、雌甲幅 7 mm。泥質干潟の低潮帯に生息する。甲羅が丸みを帯び、歩脚が細長く、長節前縁先端に 1 棘あるという特徴が、モクズガニ科のモクズガニと共通しており、幼体では間違えられることがあるが、モクズガニは前側縁に歯が眼窩外歯を含めて 3 歯あり、一方本種は 4 歯で（第 2 歯は小さく、第 4 歯はかろうじて見える程度）、甲面にも複数の隆起があることから識別できる。また、雄が雌より小さい性的二型を示すことや、オサガニ類で見られる個体間掃除行動を示すことが知られている。

【分布】 千葉県から沖縄県に分布する日本固有種。県内では津市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市で生息が確認されている。

【現況・減少要因】 近年の調査によって、新たに 10 地点以上の泥質干潟で記録されたが、いずれの生息地でも生息数は少ない。

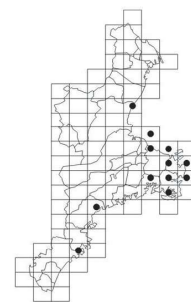
【保護対策】 現存の生息地を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）は NT に選定している。

【文献】 19, 29, 43.

（縮次美穂）

（写真：鳥羽市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影）



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

## オサガニ

十脚目 オサガニ科

*Macrophthalmus (Macrophthalmus) abbreviatus* Manning & Holthuis, 1981

【選定理由】 既知の生息地点は 20 以下。生息環境が悪化し、近年減少している。

【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雌甲幅10.3 mm。甲幅は甲長の2倍程で約35 mmに達する。内湾・河口域の海寄りの砂質干潟低潮帯に、斜めに巣穴を掘って生息する。眼柄は長い。眼窩に収まる。側縁部に軟毛が密生する。腹側は赤みを帯びる。雄の鉗脚は、掌部が指部の2倍ほどの長さで、外側上面には幾筋もの顆粒列が有り、内側には軟毛を有する。成熟した雄では、鉗を閉じたとき大きな丸い隙間ができる。繁殖期は夏期。交尾は雌の巣穴付近の地上で行われる。

【分布】 国外では朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム。国内では東京湾以南から九州。県内では、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、紀北町で記録される。

【現況・減少要因】 汚染が進み、干潟が泥質化するという生息環境悪化が、本種の個体数減少の主要因とみられている。

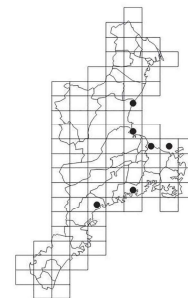
【保護対策】 現存の生息地を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はNTに選定している。

【文献】 16, 19, 57, 59.

(縮次美穂)

(写真：津市，2023年，縮次美穂採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

## ヒメヤマトオサガニ

十脚目 オサガニ科

*Macrophthalmus (Mareotis) banzai* Wada & Sakai, 1989

【選定理由】 生息地点は 30 以下。生息地はいずれも小規模な面積である。近年の調査で、本種が県内の河口域に広く分布していることが明らかになった。

【種概要】 既知の記録によると、本県で採集された最大個体は雄甲幅18.2 mm。泥質干潟の潮間帯中部から下部に生息する。近縁種のヤマトオサガニに似るが、本種はやや小型で、雄の鉗は藤色がかかった白色。雄では第3歩脚の前節と腕節の前縁に軟毛を有する。また、雄が繁殖期に鉗脚を高く振り上げ、万歳するような waving を行う（写真）ことから識別でき、本種の種小名の由来となっている。

【分布】 国外では韓国、中国、台湾。国内では神奈川県から沖縄県に分布する。県内では四日市市（筆者、未発表）津市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、紀北町、南伊勢町、尾鷲市で生息が確認されている。

【現況・減少要因】 本種は2007年に県内で初めて生息が確認された。上野（2015）は既知の生息地点を1地点としENに選定していたが、その後の調査で次々に新産地が報告された。本種はいずれの地点でもヤマトオサガニと混生しており、熊野灘沿岸では拮抗し、鳥羽市内では本種が圧倒的に多く、伊勢湾内では少ない。

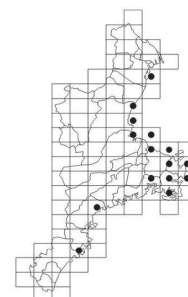
【保護対策】 現存の生息地を保全し、種の継続した調査を行う必要がある。

【特記事項】 日本ベントス学会（2012）はNTに選定している。

【文献】 19, 29, 36, 38, 43, 64, 65.

(縮次美穂)

(写真：紀北町，2011年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類	<b>ミナミヌマエビ</b> <i>Neocaridina denticulate</i> De Haan, 1844	十脚目 ヌマエビ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
鳥類	同属の外来種であるシナヌマエビと形態的な判別が困難であるため、正確な生息状況は不明である。 【文献】25.				
爬虫類	(伯者匠二)				
両生類	<b>ベンケイガニ</b> <i>Orisarma intermedium</i> (De Haan, 1835)	十脚目 ベンケイガニ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 NT
汽水・淡水魚類	朝日町から尾鷲市にかけての汽水域に生息する。夜行性。アカテガニと間違えられやすい。 【文献】29, 57.				
昆虫類	(縮次美穂)				
クモ類	<b>スネナガイソガニ</b> <i>Hemigrapsus longitarsis</i> (Miers, 1879)	十脚目 モクズガニ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
貝類	低潮帯から潮下帯の堅い砂泥地に生息。松阪市（筆者、未発表）、鳥羽市、紀北町で生息が確認されている。 【文献】29, 57.				
甲殻類	(縮次美穂)				
その他動物	<b>ハマガニ</b> <i>Chasmagnathus convexus</i> (De Haan, 1835)	十脚目 モクズガニ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 NT
維管束植物	近年記録は少ないが、鈴鹿川、田中川、雲出古川、宮川、伊勢路川での生息は確認している。夜行性の大型種。 【文献】6, 57.				
蘚苔類	(縮次美穂)				
藻類	<b>アリアケモドキ</b> <i>Deiratonotus cristatus</i> (De Man, 1895)	十脚目 ムツハアリアケガニ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
キノコ	近年、鈴鹿川（筆者、未発表）と櫛田川で生息を確認。古い記録はクマノエミオスジガニと混同されている。 【文献】4, 6, 43, 57, 60, 62, 63.				
EX	(縮次美穂)				
EW	(縮次美穂)				
CR	<b>ヒメメナガオサガニ</b> <i>Macrophthalmus (Macrophthalmus) microfylacas</i> Nagai, Watanabe & Naruse, 2006	十脚目 オサガニ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
EN	近年、鳥羽市及び志摩市から生息が確認されている希少種である。 【文献】14, 44.				
VU	(縮次美穂)				
NT					
DD					

## 文 献

- 1 半田俊彦・岡 由佳理. 2008. 志摩半島におけるシオマネキ類の生息状況. 三重の生きものだより, (39): 2-5.
- 2 林 健一. 2007. 日本産エビ類の分類と生態 II. コエビ下目(1). 生物研究社, 東京, 292 pp.
- 3 池田 実. 1999. 遺伝学的にみたヌマエビの「種」. 海洋と生物, 123: 21-4.
- 4 岸野 底・木邑聡美・唐澤恒夫・國里美樹・酒野光世・野元彰人・和田恵次. 2010. 汽水性希少カニ類クマノエミオスジガニ *Deiratonotus kaoriae* とアリアケモドキ *D. cristatus* (ムツハアリアケガニ科) の三重県櫛田川河口域における出現状況. 日本ベントス学会誌, 65: 6-9.
- 5 Kobjakova, Z.I. 1967. Decapoda (Crustacea, Decapoda) from the Possjet Bay (the Sea of Japan) . Biocoenoses of the Possjet Bay of the Sea of Japan (Hydrobiological Investigations by Means of Aqualungs) . Exploration of the Fauna of the Seas 5(= old series, volume 13): 230-247. Leningrad.
- 6 国土交通省. 2010. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) . <http://tenbou.nies.go.jp/science/database/detail.php?id=36> (2024年7月参照)
- 7 駒井智幸・丸山秀佳・小西光一. 1992. 北海道産の十脚甲殻類の分布リスト. 甲殻類の研究, (21): 189-205.
- 8 Komai, T., Naruse, T., Yokooka, H., Taru, M., Shimetsugu, M. & Watanabe, T. 2022. Redescription of *Pinnixa haematosticta* Sakai, 1934, its transfer to *Indopinnixa* Manning & Morton, 1987, and a reappraisal of *Indopinnixa kumejima* Naruse & Maenosono, 2012 (Decapoda: Brachyura: Pinnotheridae). Zootaxa, 5100(3): 361-389.
- 9 Komai, T., Shimetsugu, M. & Ng, P. K. L. 2019. Redescription and new records of a poorly known leucosiid crab, *Pseudophilyra punctulata* Chen & Ng, 2003, and description of a new species of *Pseudophilyra* from Japan (Crustacea: Decapoda: Brachyura). Zootaxa, 4550 (2): 251-267.
- 10 高知県レッドデータブック (動物編) 改訂事業改訂委員会. 2018. 高知県レッドデータブック2018 動物編. 高知県林業振興・環境部環境共生課, 279pp.
- 11 前之園唯史, 成瀬貫, 大澤正幸. 2023. 奄美大島産標本に基づくケウデヤドリカニダマシ (新称) (十脚目: 異尾下目: カニダマシ科) の北限記録. Nature of Kagoshima, 49: 45-48.
- 12 三宅貞祥. 1983. アカホシマメガニ. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II) ,p.155, pl.52-4. 保育社, 大阪.
- 13 三宅貞祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II) . 保育社, 大阪, 277pp.
- 14 Nagai, T., Watanabe, T. and Naruse, T. 2006. *Macrophthalmus (Macrophthalmus) microfylacas*, a new species of sentinel crab (Decapoda: Brachyura: Ocypodidae) from western Japan. Zootaxa, 1171(1): 1-16.
- 15 中野 環. 2001. 雲出川高潮堤防工事に伴うオカミミガイ *Ellobium chinense* 生息地の破壊. 三重自然誌, (7): 103-109.
- 16 中野 環. 2008. 第8節鈴鹿市の甲殻類. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書— (鈴鹿市環境部環境政策課編) , pp.428-431. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 17 中野 環・中 優・帝釈 元・岡 由佳理・芦刈治将・上野早苗. 2004. 英虞湾における注目すべき貝類および甲殻類の記録. 三重自然誌, (8・9・10): 33-37.
- 18 成瀬 貫・渡部哲也・吉田隆太. 2017. ムツアシガニ類6種の分布と生息環境に関する追加情報, および和名の整理. Fauna Ryukyuan, 35: 17-28.
- 19 日本ベントス学会編. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野, 285pp.
- 20 野元彰人・岸野 底・木邑聡美・酒野光世・唐澤恒夫. 2010. 三重県におけるクマノエミオスジガニ (ムツハアリアケガニ科) の分布. 南紀生物, 52(2): 119-123.
- 21 小川隆之. 2001. 淡水産エビ・カニ類. 紀勢町史自然編 (紀勢町教育委員会編) , 411-414. 紀勢町.
- 22 岡 由佳理. 2004. 志摩半島の淡水エビ. 三重自然誌, (8-10): 20-22.
- 23 岡田祐也・邊見由美・伊谷行 (2016) 高知県浦ノ内湾におけるヤドリカニダマシおよびウチノミカニダマシの記録. 四国自然史科学研究, 9: 31-34.
- 24 沖縄県環境部自然保護課. 2017. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 (動物編) —レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 712pp.
- 25 Onuki, Keisuke & Fuke, Yusuke. 2022. Rediscovery of a native freshwater shrimp, *Neocaridina denticulata*, and expansion of an invasive species in and around Lake Biwa, Japan: genetic and

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・  
淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他  
動物維管束  
植物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## 哺乳類

## 鳥類

## 爬虫類

## 両生類

## 汽水・淡水魚類

## 昆虫類

## クモ類

## 貝類

## 甲殻類

## その他動物

## 維管束植物

## 蘚苔類

## 藻類

## キノコ

morphological approach. Conservation Genetics, 23(5): 967–980.

- 26 Rahayu, D. L. & Ng, P. K. L. 2014. New genera and new species of Hexapodidae (Crustacea, Brachyura) from the Indo-West Pacific and east Atlantic. Raffles Bulletin of Zoology, 62: 396–483.
- 27 Sakai, katusi(Ed.). 2004. Crabs of Japan. world biodiversity database, ETI CD-ROM Series. ETI-Biodiversity Center, University of Amsterdam, [https://crabsjapan.linnaeus.naturalis.nl/linnaeus\\_ng/app/views/introduction/topic.php?id=3300&epi=32](https://crabsjapan.linnaeus.naturalis.nl/linnaeus_ng/app/views/introduction/topic.php?id=3300&epi=32) (2024年9月参照)
- 28 酒井 恒. 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京461pp (日本語版), 773pp (英語版), 251pp (図版).
- 29 佐藤達也編. 2023. 鳥羽市 海のレッドデータブック2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～. 鳥羽市, 297pp.
- 30 縮次美穂. 2006. 四日市のハクセンシオマネキの記録. 自然誌だより, (67): 2–3.
- 31 縮次美穂. 2007. 田中川干潟のハクセンシオマネキの記録. 自然誌だより, (71): 2–5.
- 32 縮次美穂. 2010. 三重県のトリウミアカイソモドキについて. 自然誌だより, (86): 4–5.
- 33 縮次美穂. 2013. 三重県におけるマメアカイソガニの記録. 南紀生物, 55(2): 159–162.
- 34 縮次美穂. 2014. 三重県におけるカワスナガニの記録. 南紀生物, 56(1): 53–55.
- 35 縮次美穂. 2014. 三重県におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの記録. 南紀生物, 56(1): 26–29.
- 36 縮次美穂. 2015. 三重県におけるヒメヤマトオサガニの記録. 南紀生物, 57(1): 71–73.
- 37 縮次美穂. 2016. ヤドリカナダマシを伊勢湾から初記録. 南紀生物, 58(1): 26–29.
- 38 縮次美穂. 2016. 三重県英虞湾からヒメヤマトオサガニを記録. 南紀生物, 58(2): 188–189.
- 39 縮次美穂. 2017. 三重県におけるヒメケフサイソガニの記録. 三重自然誌, (15): 1–3.
- 40 縮次美穂. 2017. ウチノミカナダマシの再発見と生態観察の記録. 南紀生物, 59(1):35–39.
- 41 縮次美穂. 2018. ギボシマメガニと高橋敬三. 自然誌だより, (117): 2.
- 42 縮次美穂. 2018. ヒメヤマトオサガニ南伊勢町にも生息. 三重県総合博物館研究紀要, (4): 35–37.
- 43 縮次美穂. 2023. 三重県産カニ類—近年の採集記録. 三重自然誌, (18): 18–24.
- EX 44 縮次美穂. 2023. ヒメメナガオサガニ. 鳥羽市 海のレッドデータブック2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～ (佐藤達也編), p.214. 鳥羽市.
- EW 45 縮次美穂. 2023. ウチノミカナダマシ. 鳥羽市 海のレッドデータブック2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～ (佐藤達也編), p.212. 鳥羽市.
- CR 46 縮次美穂・木村昭一. 2017. カネココブシ (コブシガニ科) を愛知県と三重県から初記録. 南紀生物, 59(2): 135–139.
- EN 47 縮次美穂・木村昭一. 2018. 三重県におけるウモレマメガニの記録. 南紀生物, 60(2): 255–258.
- VU 48 縮次美穂・木村昭一. 2018. 三重県におけるギボシマメガニ (カクレガニ科) の記録. 南紀生物, 60(2): 207–210.
- NT 49 縮次美穂・木村昭一. 2019. 三重県初記録のトゲアシヒライソガニモドキ. 南紀生物, 61(2): 165–170.
- DD 50 縮次美穂・木村昭一. 2020. カネココブシ. 岡山県レッドデータブック2020 動物編 (岡山県野生動植物調査検討会編), p.730. 岡山県環境文化庁自然環境課, 岡山.
- 51 縮次美穂・木村昭一. 2020. 紀伊半島のミサゴコブシ (十脚目, 短尾下目, コブシガニ科). 南紀生物, 62(2): 33–35.
- 52 縮次美穂・木村昭一. 2024. フジテガニを三重県から初記録. 南紀生物, 66(1): 51–55.
- 53 縮次美穂・木村昭一・木村妙子. 2016. 本州初記録のヤドリムツアシガニ (新称) *Hexapinus simplex* Rahayu & Ng,2014. 南紀生物, 58(2): 157–161.
- 54 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典. 2023. 干潟ベントスフィールド図鑑改訂3版. 特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合, 東京, 259pp.
- 55 田中薫子・浜崎健児・山田 誠・青木美鈴・遊佐陽一・和田恵次. 2013. 紀伊半島3河川における十脚甲殻類の分布—2011年台風12号による大洪水後の経時変化—. 地域自然史と保全, 35(2): 125–140.
- 56 Takeshita, F. & Murai, M. 2016. The vibrational signals that male fiddler crabs (*Uca lactea*) use to attract females into their burrows. The Science of Nature, 103(5–6): 49.
- 57 短尾類分布調査委員会. 1983. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の短尾類相. 三重県立博物館研究報告自然科学, (5): 1–78.
- 58 東邦大学. 2012. 小櫃川河口干潟で絶滅危惧種のカニを発見. プレスリリース370.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

<https://www.toho-u.ac.jp/press/2012/press20120816.html> (2024年7月参照)

- 59 東京都環境局自然環境部編. 2023. 東京都レッドデータブック～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版. 東京都環境局, 東京, 879pp.
- 60 富田靖男. 2003. 第三章 三雲町の動物 第八節 その他の無脊椎動物. 三雲町史第一巻通史編, pp. 104–110. 三雲町, 三雲.
- 61 豊田幸詞・関慎太郎・駒井智幸（監修）. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京, 339pp.
- 62 上野淳一. 2001. 宮川親水公園護岸工事. 自然誌だより, (49): 4–5.
- 63 上野淳一. 2006. 伊勢市外城田川河口護岸工事について. 自然誌だより, (67): 4–5.
- 64 上野淳一. 2007. 三重県未記録種ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* ならびに熊野灘沿岸河口域に生息するカニ類数種. 三重動物学会会報, (30): 4–5.
- 65 上野淳一. 2015. ヒメヤマトオサガニ. 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（三重県農林水産部みどり共生推進課編）, p.388. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 66 和田太一. 2020. オオヨコナガピンノ. 岡山県レッドデータブック2020動物編（岡山県野生動植物調査検討会編）, p.739. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 67 和歌山県. 2022. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック—2022年改訂版. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 783pp.
- 68 渡部哲也. 2012. アカホシマメガニ. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック—（日本ベントス学会編）, p. 217. 東海大学出版会, 秦野.
- 69 渡部哲也. 2020. ヒメアシハラガニ. 岡山県レッドデータブック2020動物編（岡山県野生動植物調査検討会編）, p.734. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 70 山西良平. 2012. ムギワラムシ. 日本ベントス学会編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, p. 225. 東海大学出版会. 神奈川.
- 71 吉崎和美. 2018. 天草のカニ類 写真図鑑. 一粒書房, 愛知, 199pp.